●.「観光客が減少していた温泉地の活性化支援」

（但馬信用金庫）

1. 取組の概要

・観光客が減少していた新温泉町で、湯村温泉および周辺地域観光活性化研究事業（2010年～2013年）に取り組んだことをきっかけに、湯村温泉キャラバン事業（2014年～現在）、町内で建設される道の駅の調査研究事業（2016年～2017年）、但馬杜氏・酒造りの復活を支援する事業（2017年～現在）、環境省によるワーケーション事業『新・湯治』（2018年～現在）等を継続的に取り組み、地域の活性化を支援している。

2. 取組を始めるに至った経緯、動機等

・当金庫では弱体化した温泉地を支援することで地域活性化に貢献できないかと考え、湯村温泉および周辺地域観光活性化研究事業を立ち上げ、観光協会・商工会・町役場等の多様な主体と連携して取り組んだ。ノウハウを蓄積し、エリア内の他地域での横展開に繋げていく目的もある。

3. 具体的な取組内容

・湯村温泉および周辺地域観光活性化研究事業では、20回に亘る活性化ワークショップを実施。各種施策提言の外、実行部隊である「湯村温泉会議」の立ち上げなどの施策も提言・実行。加えて、同会議メンバーを中心に信用金庫業界の年金旅行の誘致活動（キャラバン）に取り組んだ。

・その後、町から受託した道の駅新設のための調査事業では近隣の自動車道開通で将来的な道の駅の利用客減少が予見された。そこで、道の駅を目的地化するため、魅力ある商品開発（漁獲高日本一の“ハタハタ”“ホタルイカ”を活用した料理コンテスト等）や酒蔵復活の支援を実施。

・こうした中、年間の稼働率を高める為にオフシーズンの平日に来訪・滞在可能な新たな顧客層を開拓すべく、環境省温泉地保護利用推進室が取り組む『新・湯治』プロジェクトに早くから参画。同プロジェクトを新温泉町に紹介するとともに、当地でのワーケーションを関東圏の大企業やIT企業に提案した。兵庫県の地域創生戦略の一つ「但馬ワークプレース・プロジェクト」と連携したファムトリップ（2020年10月開催：東京のIT事業者等14名を対象）には当金庫も参加し、新温泉町との関わり方について各事業者に助言を行った。地域課題解決型のワーケーション（2020年12月～2021年2月開催）については、企画段階から知恵出しを行い、応募のあった事業者の選定にも間接的に関与した。また、こうした活動への運転資金も融資した。

4. 実施にあたり工夫した点（金融機関の役割・推進体制面・PDCAサイクル面等）

・長期に亘り、新温泉町と連携し活性化を行っているが、担当者同士の信頼関係が重要であるため、経営陣の理解と支援の下、当金庫では担当者を変更せずに同事業に取り組み、町役場の人事異動の度に関係を構築・強化している。先進地視察などで情報収集・人脈構築にも努め、2020年10月より兵庫県が取り組むワーケーション推進事業に当金庫役員も委員として参画。

・「但馬杜氏」と酒造りの復活の事業に関しては、当地のキラーコンテンツとなりうるため、販路開拓をはじめとした丁寧な事業化支援を行っている。

5. 取組の成果（取組中の場合は目標値・KPI等）

・2011年に158千人まで減少した入込客数は、2015年には大型団体旅行の誘致に成功し229千人に増加（2019年度183千人）。キャラバンは6年間で18千人超の誘客に成功し、飲食店3店舗が創業、廃業土産物店・旅館が再オープン。2021年度は、地域課題解決型ワーケーションに参加した30者（社）の中から、①継続して地域課題に関わる10者（社）、②活動拠点を構えるまでに至る5者（社）が生まれるよう、新温泉町と連携し活動していく。

6. スキーム図等

観光客が減少していた 温泉地の活性化支援

活性化の実績

交付金の取組実績

湯村温泉および周辺地域観光活性化研究事業

2010.8～2011.10

事業概要
・20回に亘る活性化ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ
構成員
・観光協会・商工会・新温泉町役場・住民・信用金庫等

施策の提言

施策実行部隊「湯村温泉会議」の組成

- **2011年度158千人 →2015年度229千人**
- **飲食店3店舗のｵｰﾌﾟﾝ**
- **廃業土産物店の再ｵｰﾌﾟﾝ**
- **廃業旅館を地元業者が購入し、新旅館がｵｰﾌﾟﾝ**

湯村温泉 キャラバン隊の組成

2014.7～現在

「湯村温泉会議」の活用
構成員
観光協会・商工会・新温泉町役場・信用金庫等

観光客獲得へ連携
↓
信金業界の年金旅行誘致

訪問金庫 38金庫

キャラバン回数 7回（1泊2日/回）

獲得観光客数 約18,000人

新たな課題

コロナ発生による各信用金庫の年金旅行の中止

道の駅の調査研究事業（地方創生加速化事業の一部を新温泉町から当金庫が受託）

2016.8～2017.10

①新しいヒト・モノの流れによる地域振興プラン策定

課題
・自動車道全線開通により交通量の減少・道の駅の利用客減少が見込まれる

施策　道の駅を新温泉町のキラーコンテンツの一つに

②新旅館食材・新加工品売出事業

海の“ごっつぉー”ｺﾝﾃｽﾄ

新温泉町で漁獲高日本一の“ハタハタ”“ホタルイカ”を活用

③できるおばあちゃん研修

道の駅の野菜を魅力的な商品構成にするための生産者へのセミナー

杜氏・酒造りの復活支援（事業者を新温泉町・当金庫で支援）

2017.11～現在

新温泉町の新たなキラーコンテンツの開発

但馬杜氏

地元産の良質な酒米

酒蔵買収・誘致

地域経済循環創造事業交付金（ローカル10,000プロジェクト）申請（支援）・採択

但馬信用金庫＋新温泉町

支援内容

- **ﾋﾞｼﾞﾈｽﾓﾃﾞﾙのﾌﾞﾗｯｼｭｱｯﾌﾟ**
- **ｸﾗｳﾄﾞﾌｧﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ**
- **ﾋﾞｼﾞﾈｽﾏｯﾁﾝｸﾞ支援**
- **ﾌﾞﾗﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ支援**

新・湯治プロジェクト（ワーケーションの可能性の模索）

2018.12～2020.2（コロナ）～現在

課題
・団体旅行の減少・繁閑の平準化＋コロナ禍による二ューノーマルに対応した観光地の形成

環境省
『新・湯治』への参画と新温泉町への紹介

チーム新・湯治全国大会での町長プレゼン

兵庫県地域創生戦略
「但馬ワークプレース・プロジェクト」

ファムトリップの実施支援

目標

新温泉町でワーケーション導入の機運を醸成し、団体旅行に依存しない、観光地の持続可能な発展に寄与する。